第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ミヤラヒメヘビ

Calamaria pavimentata miyarai Takara, 1962

太田英利（兵庫県立大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：太田英利，2026．ミヤラヒメヘビ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 23-27.

Citation: Ota, H., 2026. *Calamaria pavimentata miyarai* Takara, 1962. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 23-27.

有鱗目 Squamata　ナミヘビ科 Colubridae　　日本固有

ミヤラヒメヘビ

***Calamaria pavimentata miyarai* Takara, 1962**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠA類（CR）　B1ab				
基準 A:　－	基準 B:　CR	基準 C:　－	基準 D:　－	基準 E:　－

B1．出現範囲が 100 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、ただ 1 か所の地点に限定されている。
【地点数】1 地点
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
生息域の全体で舗装道路や付随する側溝の整備、常緑広葉樹の自然林、二次林の伐採、農地化が進み、それにともなう土地の乾燥化が認められる。生息地の大部分で、生息環境は悪化している。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

八重山諸島の与那国島の固有亜種。一年を通して適度に湿った腐植性の土壌・底質のある場所に生息する。乾燥、高温に弱く小型で移動能力も低いため、森林の伐採や舗装道路、側溝の敷設が、生息地の縮小・分断を引き起こしていると思われる。近年、人によって持ち込まれ定着したインドクジャクによる捕食圧の影響も、強く懸念される。

基礎情報

【形態】

成体の全長は 300～380 mm（頭胴長 290～340 mm）程度。頭部の幅は頸部の幅とほとんど変わらない。尾は太短く、先端は尖る。胴部のほぼ全域の背面で、滑らかな体鱗が 13 列に並ぶ。背面の地色は概ね緑褐色で、ミヤコヒメヘビ（*Calamaria pfefferi*）に比べて暗い。腹面の地色は鮮やかな黄緑色で、各腹板には暗帯がある。腹板数はオス 157～162 枚、メス 166～174 枚。尾下板数はオス 27 対、メス 19～21 対。

【生活史】

これまでに 3～8 月に発見されている。これ以外の時期に活動するかどうかは不明。生活史、生態には不明な点が多い。3 月末に得られた頭胴長 263 mm、 全長 284 mm のメスでは生殖腺は未成熟であった。その一方で 8 月に発見された、これまでの成熟個体中最小のオスは、頭胴長 301 mm、全長 320 mm であった。

【生息環境】

常緑広葉樹の自然林や二次林、さらには低木林、石灰岩植生の林床に生息し、比較的湿潤な場所に見られる。本亜種を含むヒメヘビ属はミミズ類を専食すると思われ、実際、生きた状態で発見された 1 成体は捕獲後、ミミズを吐き出した。また本亜種自身、直射日光による高温や乾燥に弱いことから、一年を通して乾燥せずミミズの多い腐食質の底質と、直射日光を遮る植生ないし岩の存在が、生息に必要な条件と考えられる。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，草地 【陸域_平地部】森林，草地
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(2) 里地里山・田園地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

八重山諸島の与那国島のみに分布。

現在の生息状況

【分布域の現況】

これまでに確認された分布域は、与那国島中東部にある宇良部岳の斜面や山頂にある林、中部にあるテンダバナ周辺の林、南部にある比川近くの林、西部にある久部良岳の北側の林など。上記のように本種は、乾燥や高温に弱く、しかも移動能力があまり高くない。そのため土地の造成・農地化、舗装道路の整備とそれにともなう側溝の敷設により、分布が容易に分断されてしまうことが予想される。

【生息地の現況】

生息域の全体で舗装道路や付随する側溝の整備、常緑広葉樹の自然林、二次林の伐採、農地化が進み、それにともなう土地の乾燥化が認められる。生息地の大部分で、生息環境は悪化している。

【個体数の現況】

地元住民による側溝への墜落による大量死や、目撃頻度の低下などの話から、減少傾向にあることが予想されるが、具体的な数値は不明。

存続を脅かす要因

1980 年代の前半より続けられている森林の伐採や、おもに農地化を目的とした土地造成による乾燥化。舗装道路・側溝の敷設。外来性捕食者であるインドクジャクの侵入・定着。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，土地造成，交通インフラ建設，捕食（外来種による），その他（側溝への落下とそれによる分断）
	（現在）	森林伐採，土地造成，交通インフラ建設，捕食（外来種による），その他（側溝への落下とそれによる分断）

特記事項

与那国島は、他の八重山の島々と台湾との間に位置しながら、周辺の海の深さなどから、そのいずれからも比較的長期間隔離されてきたと考えられている。本亜種の分布は、こうした隔離の存在を強く示唆しており、学術的に高い価値を有している。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	ミヤラヒメヘビ	*Calamaria pavimentata miyarai*	VU
第４次 2019：	ミヤラヒメヘビ	*Calamaria pavimentata miyarai*	VU
第４次 2018：	ミヤラヒメヘビ	*Calamaria pavimentata miyarai*	VU
第４次 2017：	ミヤラヒメヘビ	*Calamaria pavimentata miyarai*	VU
第４次 2015：	ミヤラヒメヘビ	*Calamaria pavimentata miyarai*	VU
第４次：	ミヤラヒメヘビ	*Calamaria pavimentata miyarai*	VU
第３次：	ミヤラヒメヘビ	*Calamaria pavimentata miyarai*	VU
第２次：	ミヤラヒメヘビ	*Calamaria pavimentata miyarai*	VU
第１次：	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【沖縄県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- 千木良芳範，2005．ミヤラヒメヘビ．沖縄県文化環境部自然保護課（編），改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）－レッドデータおきなわ－，pp. 115．沖縄県文化環境部自然保護課，那覇．
- Inger, R. F. and H. Marx, 1965. The systematics and evolution of the Oriental colubrid snakes of the genus *Calamaria*. Fieldana: Zoology, 49: 1–304.
- Mori, A. and H. Moriguchi, 1988. Food habits of the snakes in Japan: A critical review. The Snake, 20: 98–113.
- 太田英利，1982．ミヤラヒメヘビ（*Calamaria pavimentata miyarai*）の死体拾得の報告、およびタイワンヒメヘビ（*Calamaria pavimentata formosana*）、ヒメヘビ（*Calamaria pfefferi*）との比較．The Snake，14: 40‐43．
- 太田英利，2009．ミヤラヒメヘビ、ヨナグニシュウダ．佐々木健志（編），琉球大学資料館（風樹館）収蔵タイプ標本目録，pp. 10‐11．琉球大学資料館（風樹館），西原．
- 太田英利・外間善雄，1996．ミヤラヒメヘビの生体の発見．Akamata，13: 10‐12．
- 当山昌直，1984．琉球の両生爬虫類．沖縄の生物，pp. 281‐300．沖生教研会，那覇．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calamaria pavimentata miyarai has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calamaria pavimentata miyarai* is listed as CR under criteria B1ab.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 100 km², and estimates indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at only a single location.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest, Grassland 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest, Grassland
Threat types:	Logging and wood harvesting, Land development, Transportation infrastructure construction, Predation (by alien species), Other
Law designation status for conservation	―



執筆者:	太田英利（兵庫県立大学）
Author:	Hidetoshi Ota

公表年月：2026 年 3 月